

## 14. インターンシップ・就職観について

### Q55 大学入学後、インターンシップ（就業体験）に参加したことがありますか [択一]

インターンシップに参加したことがある学生は全学で11.8%、男子学生は8.8%、女子学生は16.2%という結果であった。およそ1割の学生が参加しており、男子学生よりも女子学生のほうが参加している傾向が強いことがわかる。インターンシップに興味がある学生、すなわち「ある」ないし「参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」と回答したものの合算は、全学で63.8%、男子学生は60.3%、女子学生は70.1%ということになる。およそ3分の2の学生がインターンシップに興味があり、その傾向は女子学生のほうが強いようである。

インターンシップに参加したことがある学生は年度毎に増加傾向にあり、2005年度は2.9%であったものが、2010年度は5.9%となり、2015年度には11.8%となっている。インターンシップに興味がある学生も同様の傾向にあり、2005年度は50.3%、2010年度は56.9%、2015年度は63.8%となっている。インターンシップという言葉の認知度は年々高まり、その参加の有用性や必要性を感じる学生は増加傾向にある。

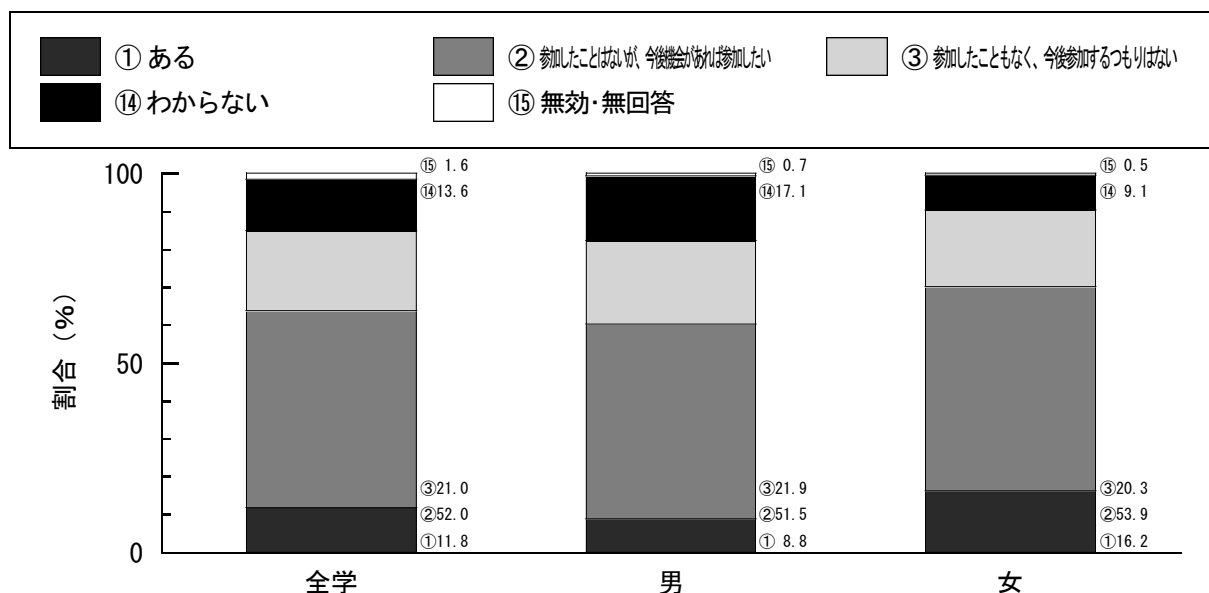


図 14-1-a Q55 の集計結果 (全学・男・女別)

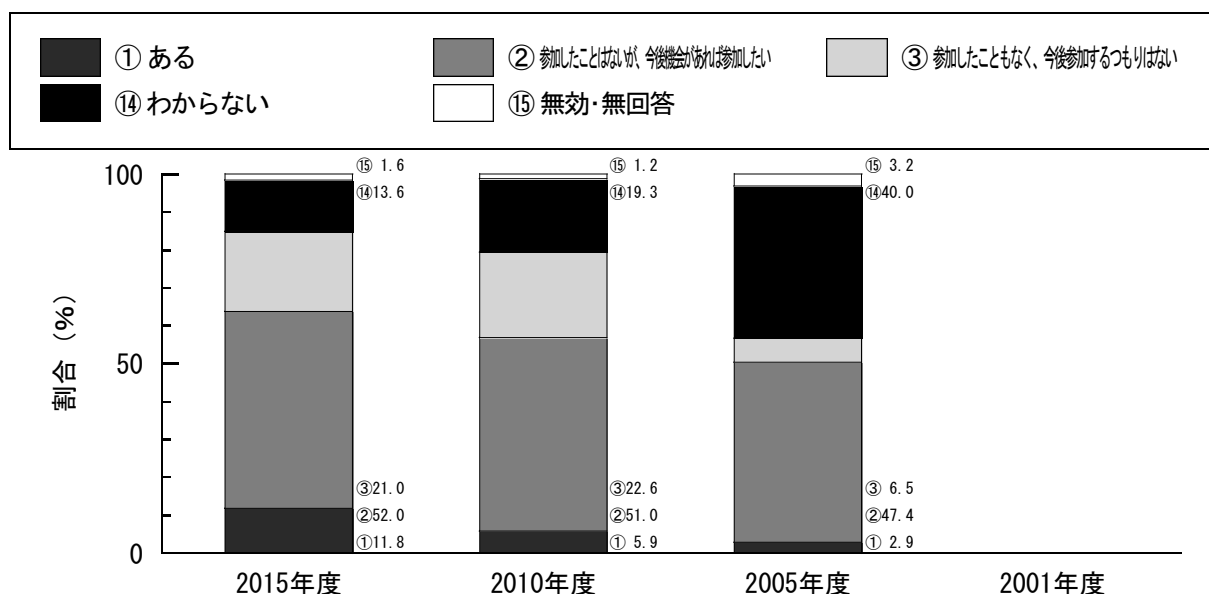


図 14-1-b Q55 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

### Q56 就職先を選ぶ際には、どのような条件を重視しますか〔複数選択可〕

就職先の選択条件として、「やりがい」が最も多く選択されている。特に女子学生のほうがその傾向は強いようである。また「給与」、「専門性」も重要な要素であり、「給与」に関しては男子学生のほうが、「専門性」に関しては女子学生のほうが重要視するようである。「福祉性」、「休日」、「地元志向」も重要な要素であり、「福祉性」や「地元志向」は女子学生が重要視する傾向にあるようである。「公務員による安定」は全体のおよそ 2 割が持っているようである。男子学生による「有名企業による安定」は女子学生のそれよりも高く、男子学生は「安定」、女子学生は「できれば公務員による安定」を考慮しているようである。

「やりがい」に関しては全ての年度において最も高い選択結果となっているが、2010 年度と比較すると約 8% 下がっている。また「専門性」に関しても 2010 年度に比べて 2015 年度は下がっているように感じる。2005 年度における「給与」や「福祉性」は他の年度と比べると低く、2005 年度まで続いた「就職氷河期」と関係があるように思われる。「休日」、「地元志向」を選択する学生は 2005 年度より増加傾向にある。2001 年度に 42.0% が選択した「公務員による安定」は、2015 年度では 18.0% と半分以下となっており、バブル景気崩壊後の民間企業への不安感はかなり軽減されたように感じられる。

表 14-1-a Q56 の集計結果 (全学・男・女別)

	全学	男	女
やりがいがある仕事であること	70.7	66.5	78.2
給料が高いこと	39.5	42.8	36.3
有名大企業で安定していること	12.5	15.7	8.9
自宅通勤出来ること	7.3	6.2	8.5
中堅企業で成長していくこと	5.8	5.8	6.0
社会の役に立つこと	27.0	25.1	30.8
学んだ専門を生かせること	38.9	37.2	42.2
景気にそれほど左右されないこと(公務員等)	18.0	16.7	19.9
休日・休暇が多く余暇を楽しめること	31.4	32.5	30.8
ユニークな企業活動をしていること	9.5	9.4	9.9
地元(出身地)で働けること	26.9	21.2	34.4
大都市で働けること	7.0	7.4	6.6
その他	2.7	2.6	3.0

表 14-1-b Q56 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

	2015 年度	2010 年度	2005 年度	2001 年度
やりがいがある仕事であること	70.7	78.5	73.5	82.8
給料が高いこと	39.5	41.0	32.8	41.0
有名大企業で安定していること	12.5	15.9	7.7	9.4
自宅通勤出来ること	7.3	8.5	9.4	14.3
中堅企業で成長していくこと	5.8	6.9	5.0	7.5
社会の役に立つこと	27.0	25.3	19.6	31.7
学んだ専門を生かせること	38.9	43.8	36.6	55.2
景気にそれほど左右されないこと(公務員等)	18.0	22.6	22.4	42.0
休日・休暇が多く余暇を楽しめること	31.4	28.1	27.9	38.9
ユニークな企業活動をしていること	9.5	11.5	10.8	17.7
地元(出身地)で働けること	26.9	26.3	22.3	-
大都市で働けること	7.0	8.5	4.0	-
その他	2.7	2.8	2.8	4.5

Q57 大学卒業後（大学院等への進学希望者は修了後）、  
一番就職したいと思う分野は次のどれですか [択一]

「教育（教員）」や「官公庁（公務員）」が多く、両者を合計すると 30.1%である。また「医療・保健」に関しても 15.6%と大きい。これは医学部や共同獣医学部という学部の特徴の現れであろう。「医療・保健」に関する男女間に約 10%、「製造業」に関する約 5%の差異は、医学部や共同獣医学部、工学部の男女比が関係している。

「官公庁（公務員）」への就職希望状況は 2010 年度までは減少傾向にあり、2015 年度において横ばいとなっている。2007 年の団塊世代の大量退職に伴う雇用状況の好転と景気の回復がこの様相の背景にあると思われる。

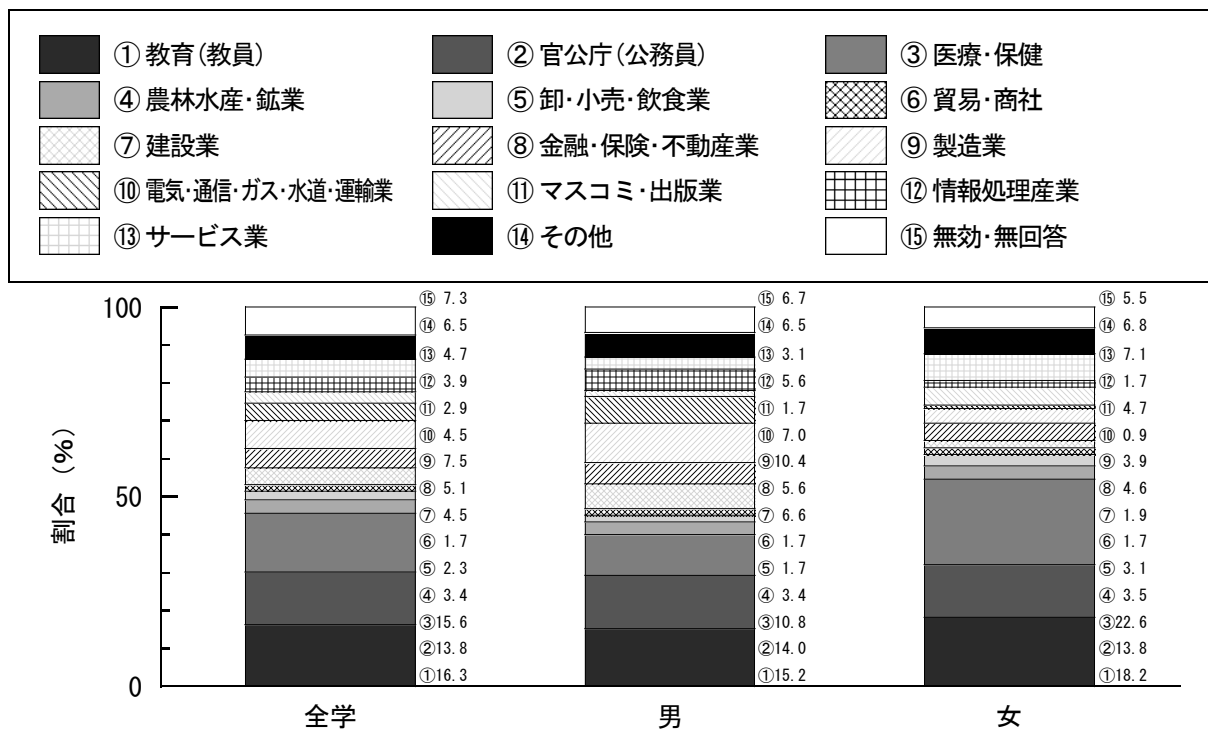


図 14-2-a Q57 の集計結果 (全学・男・女別)

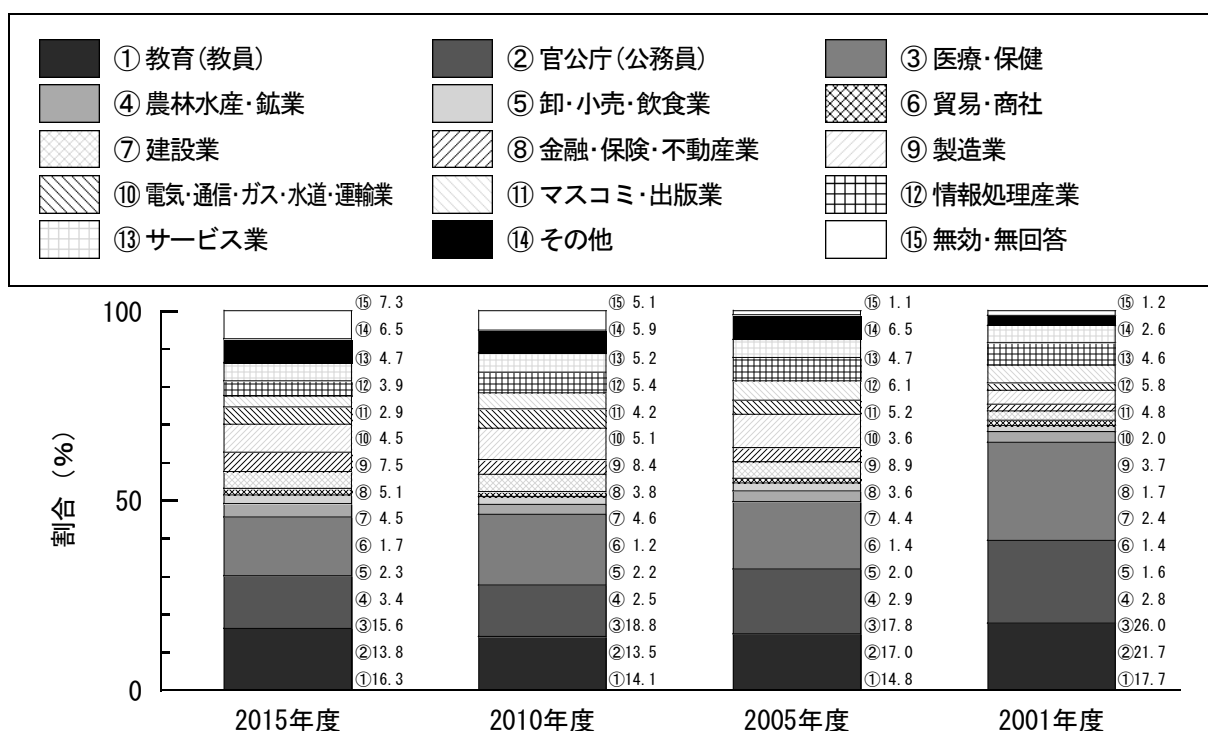


図 14-2-b Q57 の集計結果 (全学に関する調査年度別)